

福田病院が担う役割について

令和 7 年 7 月 福田病院

1 現状と課題

【自施設の現状 ①】

福田病院は、1907年に設立され、医療を通じて女性の幸福に貢献する事を目的とし、その時代に応じて、地域医療の一翼を担って来た女性専門病院です。

「安全・安心・快適」をスローガンに、母子の安全を守るため、高度先端医療に取り組んでいます。

100年以上もの間、地域医療の一端を担ってきた歴史の中で、私たちは命の重さ、命の尊さを、誰よりも強く知っています。地域周産期母子医療センターとして、NICU・MFICUを併設し、ハイリスクの妊婦と赤ちゃんを県下全域から24時間体制で受け入れています。女性のライフステージである、誕生から思春期、妊娠出産を迎える成熟期、更年期、老年期に至るまで女性すべての健康を守り、その生活を支援しサポートするウーマンズホスピタルを目指しています。

この役割については、継続して重責を担っていかねばならないと考えております。

近年の日本における少子化により分娩施設の集約化が進み、当院での出産を希望される方は年々増加しています。これは、地域医療への貢献として喜ばしいことです。しかし、その一方で、現在の病床数では受け入れが困難な状況がしばしば発生しております。

さらに、乳腺外科の拡充は女性の幸福に貢献するためには必要不可欠であり、さらなる入院患者数の増加は容易に考えられ、病床ひっ迫はより一層深刻化する見込みです。

1 現状と課題

【自施設の現状 ②】

○ 分娩取扱施設の減少・集約化による分娩取扱数の増加

- ・晩婚化、晩産化、そして少子化といったライフスタイルの変化により、全国的に分娩数が減少している。
- ・これにより、分娩施設の集約化が進んでおり、妊婦健診は近隣のかかりつけ医、分娩を病院でおこなうセミオープンシステムの拡充を進める当院での分娩取扱件数は増加傾向にある。

○ 福田病院分娩数推移

- ・ 2022年度 3, 6 9 0 件
- ・ 2023年度 3, 8 5 8 件
- ・ 2024年度 3, 9 5 3 件
- ・ 2025年度 4, 0 1 8 件（予測値）

○ 福田病院 セミオープン協力医療機関（2025年7月現在）

- ・ いんでレディースクリニック
- ・ 桑原産科婦人科医院
- ・ 清田産婦人科医院
- ・ レディースクリニックなかむら
- ・ 菊陽レディースクリニック
- ・ まつばせレディースクリニック

1 現状と課題

【自施設の現状 ③】

○ 病床稼働率

病床稼働率	2022	2023	2024	2025	2026
病院全体	74.5 %	74.6 %	75.0 %	78.5 % (予測値)	80.1 % (予測値)
うち産科・婦人科	88.3 %	90.5 %	91.2 %	95.0 % (予測値)	98.0 % (予測値)

・分娩予測より、分娩予定数の多い時期においては、限られた病床数を有効活用し円滑な病床運営を図るため、以下のような取り組みを実施している。

・早期の退院に向けたご理解とご協力:

入院される患者様に対し、早期退院へのご協力の声掛けを行い、産後 母児ともに状態が安定している場合には、予定よりも早期の退院にご協力いただく。

・退院後の生活に関する情報提供:

退院後の育児や生活に関する情報提供や相談体制を整え、安心してご自宅に戻るようサポート。当院でも産後ケアを行っておりますが、常に予約が埋まる状態です。

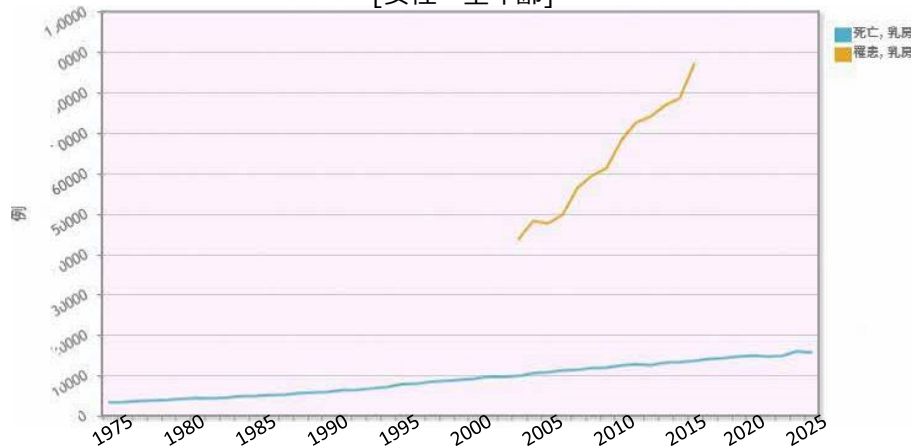
1 現状と課題

【自施設の現状 ④】

○ 乳がん患者数の増加懸念

- ・ 年々増加する乳がん患者に対応するため、新たにブレストセンターを開設し、診察・手術・薬物療法を含む総合的な診療を開始。
- ・ 当院にて実施したがん検診でも、がん診断の事例が増加傾向にある。

部位別 死亡数（全国）・罹患数（全国）年次推移
[女性・全年齢]



出典: がん情報センター「罹患数と死亡数」より

当院の乳腺外来受診数とがん診断数

実施年	受診数	がん診断数
2022	6480	14 (0.22%)
2023	6759	42 (0.65%)
2024	7446	33 (0.44%)
2025	8000	50 (予測値 0.63%)

1 現状と課題

【自施設の課題】

○ 産科・乳腺外科における入院患者数増加への対策の必要性

分娩予定の多い時期には、早期退院へのご協力をお願いするなど、様々な病床管理の工夫を重ね、病床数の上限を超えないよう調整している。しかしながら、近年、分娩の集約化が進み、当院における分娩患者数は増加の一途を辿っており、現状の対策だけでは、これ以上の患者数増加に対応することが困難な状況である。

また、ブレストセンター開設後、乳がん治療の手術、化学療法、薬物療法まで一貫した治療実施による入院患者増加のため、さらなる困難な状況が予想される。

○ 母体搬送受入の制限

病床が満床の場合には、地域周産期母子医療センターとしての救急搬送の受け入れに支障が生じており、4つの周産期母子医療センターと協力し、県外搬送にならないよう努めています。

○ 看護職員及び患者様への負担増加

病床が逼迫する中で、部屋移動などを頻繁に実施せざるを得ない状況は、職員にとって大きな負担となっているだけでなく、患者様にとっても産後の療養環境の変化による精神的なご負担が増加しているという課題も生じている。

2 今後の計画

【今後の計画】

○ 救急搬送受入体制の継続

平成18年3月に熊本県で2番目の周産期医療の基幹施設として「地域周産期母子医療センター」の指定を受け、熊本県の周産期医療の一翼を担って参りました。

熊本県における母子救急搬送受入体制の改善策として、県外への搬送を無くすことを目標とした熊本県救急医療情報システム（熊本県周産期医療情報ネットワーク）が構築され、各周産期医療機関の空床状況を共有することで、母体と新生児搬送の受入先決定の指標となっています。また、有機的な機能分担を図るため、「総合・地域周産期母子医療センター」、「地域周産期中核病院」、「病院・診療所」等、各周産期医療機関の受入基準が示され運用されています。

今後、分娩施設の集約化に対応するための病床及び乳がん治療のための専門病床を確保し、地域の中核病院としての役割を果たしてまいります。

3 具体的計画

【具体的計画】

① ソフィアレディースクリニック水道町からの病床移管

・既存の施設であるソフィアLCの病床15床を当院へ移管し、分娩施設集約化に対応する為の病床及び、ブレストセンターの病床として活用。

同一法人医療機関の急性期病床数

施設名	診療圏域	現在病床数	移管後病床数	備考
福田病院	熊本・上益城	1 6 1	1 7 6	
ソフィアLC水道町	熊本・上益城	1 9	4	1 5 床を福田病院へ移管
まつばせLC	宇城	1 9	1 9	
菊陽LC	菊池	1 9	1 9	

3 具体的計画

【具体的計画】

4 機能ごとの病床のあり方

単位：床

病床機能	2024年(令和6年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	3 3	3 3	
急性期	1 3 1	1 4 6	
回復期			
慢性期			
その他			
合 計	1 6 1	1 7 6	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	2024年	2025年	理由・方策
維持	産科、婦人科、小児科、 新生児内科、乳腺外科、 肛門外科、麻酔科	産科、婦人科、小児科、 新生児内科、乳腺外科、 肛門外科、麻酔科	
新設		精神科	こころの外来を開設 (当院妊婦のみ対象)
廃止			
変更・統合			

3 具体的計画

【数値目標】

② 病床上限を超過せずに運用継続

- ・移管後の15床を有効利用し、稼働率を抑え、病床上限を超過せずに運用を行う。

病床稼働率	2025	2026
産科・婦人科	95.0 % (予測値)	98.0 % (予測値)



病床稼働率	2025	2026
産科・婦人科	89.0 % (予測値)	90.0 % (予測値)

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

○ 病床管理調整の継続:

増床後も、患者様の状態に応じた適切な病床運用と、入退院調整を継続的に行う必要がある。特に、緊急搬送受け入れと、予定入院患者様の調整を両立させるための、より細やかな病床管理体制の構築を進める。

○ 周辺医療機関とのさらなる連携:

病床の有効活用と、地域全体の周産期医療体制の強化のため、近隣医療機関との情報共有や連携をより一層深めていく必要がある。